

- ③ 市川水系
神崎郡福崎町南田原(市川の河原) 18.V.2000
- ④ 揖保川水系
龍野市龍野町日山(揖保川の河原) 8.VI.2000
揖保郡新宮町下野(揖保川の河原) 8.VI.2000
- ⑤ 千種川水系
赤穂市尾崎(千種川の河口) 8.VI.2000
佐用郡上月町小赤松(千種川の河原) 18.V.2000
佐用郡上月町早瀬(佐用川の河原) 18.V.2000
- ⑥ 円山川水系
養父郡八鹿町伊佐(円山川の河原) 14.V.2000
養父郡養父町藪崎(円山川の河原) 4.VI.2000
朝来郡朝来町多々良木(円山川の河原) 3.VI.2000
- ⑦ 矢田川水系
城崎郡香住町矢田(矢田川の河口) 14.V.2000
城崎郡香住町間室(矢田川の河原) 14.V.2000

4 調査結果について

今回アイヌハンミョウの生息が確認できた場所の環境は、いずれも河川上流域から中流域の広い河原で、径10~30センチメートルの丸い泥のついていない隙のあるところであった。また、同じ河原でも砂地のところにはコニワハンミョウが見られ、住み分けているようである。

加古川と千種川については今回の調査では確認できなかったが、もう少し上流や支流を調べてみる必要があると考えている。

但馬地域の河川についてはあまり調査ができていないため、円山川の支流や矢田川、岸田川の河原などではまだ見つかる可能性があると思われる。

今回県内の主要河川を粗く回ってみた印象からいえば、アイヌハンミョウはやはり局所的な分布をずるものようであり、生息環境となる自然性の高い広い河原は以外に少なく、このような環境はさわずにそのまま残していったほしいものである。

(SHIBATA TAKESHI 明石市太寺天王町2970-7)

ナナフシモドキを飼育して
近藤 伸一

5月28日、加古川市志方町で採集したナナフシモドキの幼虫を飼育した。食草がわからなかったため、採集地に普通にある植物を中心に適当な葉を飼育箱に入れた(アケビ、ノイバラ、モチツツジ、ハンノキ、コナラ、イロハモミジ、マルバアオダモ、マンサク)。アケビとコナラをよく食べたので6月11日~17日まではこの2種で飼育した。アケビとコナラの葉の食べた面積はほぼ同じであった。17日の体長は5.2cm。

6月18日~24日にかけては、イタヤカエデ、ソメイヨシノ、マルバアオダモで飼育したが、イタヤカエデとソメイヨシノを食べ、マルバアオダモは食べなかった。

6月24日には脱皮しており、一回り大きくなった。なんと脱皮殻が足までそのままの形で残っている。

6月25日~29日にかけては、フジ、エノキ、ハンノキ、ネズミモチ、ノブドウで飼育した。フジを最も好み、次いでエノキをよく食べた。ハンノキは少し食べただけで、ノブドウ、ネズミモチは全く食べなかった。

6月30日~7月6日にかけては、アベマキ、シリブ

カガシ、イヌビワ、コクサギ、マルバアオダモで飼育した。アベマキを最も好み、シリブカガシを少し食べイヌビワ、コクサギ、マルバアオダモは全く食べなかった。

7月11日、脱皮に失敗したようで、頭部と胸部の間で折れ曲がり、まもなく死亡した。

ナナフシモドキの植物嗜好状況

- ◎好んで食べる ○食べる ×好まない ・不明
- ブナ科 ◎コナラ ◎アベマキ ○シリブカガシ
- バラ科 ◎ソメイヨシノ ・ノイバラ
- ハンノキ科 △ハンノキ
- ニレ科 ○エノキ
- アケビ科 ◎アケビ
- カエデ科 ◎イタヤカエデ ・イロハモミジ
- ツツジ科 ・モチツツジ
- モクセイ科 ×マルバアオダモ ×ネズミモチ
- マンサク科 ・マンサク
- マメ科 ◎フジ
- ブドウ科 ×ノブドウ
- イチジク科 ×イヌビワ
- ミカン科 ×コクサギ

(KONDO SHINICHI

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)